

信楽園病院だより

102号 平成21年9月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 Tel 025-260-8200

FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

リハビリ紹介3 「言語聴覚療法（ST）室から」

リハビリテーション科技士長 言語聴覚士 栗原 恵理子

言語聴覚療法では、失語症・記憶障害をはじめとする高次脳機能障害や運動障害性構音障害を示す方々に、より豊かなコミュニケーションがとれるよう援助しリハビリを行います。また、嚥下障害の患者様には、安全に食事が出来るようにお手伝い致します。



「失語症」という用語はかなり社会に浸透したようです。最近、患者様の言語症状をご説明しようとしたら、ご家族がブローカ失語・ウェルニッケ失語という失語症の種類までご存知で、感心してしまったことがありました。

失語症では、脳血管障害や脳外傷などで大脳の言語を司る部位が損傷されることによって、赤ちゃんのときから育ててきた言語能力が一瞬にして奪われます。患者様は病気や事故の直前までとても流暢に話をしていたのに急に言葉が出なくなったことに、びっくりしたりショックを受けたりされます。このような患者様の心に寄り添いながら、最大限の言葉のリハビリを行うことが私たち言語聴覚士(ST)の仕事です。

U様のことをご紹介します。U様は51歳の時に脳出血を発症。重度の右片麻痺と失語症が出現しました。発症とほぼ同時に理学療法(PT)・作業療法(OT)・言語聴覚療法(ST)を開始。失語症は重篤で相手の言うことは少し分かるものの、自分から話をするとはとても難しい状態でした。が、これほど重度の言語障害でありながら、そのうち、コミュニケーションがととてもよく取れていることにご家族もリハビリスタッフも気がつきました。「心の交流」がいつもあったのです。彼女は言葉で表現できなくても、その優しい眼差しや、ちょっと困ったような表情や、身振り手振り、声の抑揚などで、積極的に語りかけてられました。リハビリで描画能力や書字能力が改善してくると特に、彼女が失語症それも重度の失語症であることを忘れるほどでした。そして、それを土台にして、その後も失語症のリハビリと改善は続いて行きました。

患者様は皆、単に言葉で伝えあうことだけがコミュニケーションではないこと、そして心が通い合っていることが如何に大切かということを教えて下さいます。

先回もご紹介しましたように、当院最上階のリハビリテーション室からの眺めは絶景です。新潟市西区の街並み、高くて広い空、新潟大学各学部の建物と周辺の家々、たくさんの緑、野球で大活躍の日本文理高校などを一望のもとに見渡すことができます。ST室でも、多くの患者様が「良い眺めだね」「今日は佐渡が見えるかな？(海の向こうの佐渡が見えるか見えないかはお天気しだい...)」などと、「言葉」と「こころ」の両方でお話しされています。